

資料 5

令和 8 年度 各専門部会等の事業計画

令和 8 年(2026) 7 月 8 日

出雲市健康福祉部福祉推進課

令和8年度　じりつ専門部会　活動計画
(施設からの地域移行ワーキング)

取組課題		施設やグループホームからの地域移行、地域定着についての現状と課題、今後の取組内容について、検討を行います。						
部会員 (◎会長) (○副会長)	氏名	◎濱村	○高尾	玉木	米山	川島	富岡	砂田 佐藤
	事業所名	光風園	出雲サンホーム	かのん	かのん	かのん	Reve	事務局
令和7年度								
ねらい		グループホームからの地域移行をかなえる具体的な手立てを考える。						
実施したこと		WGを5回開催。にも包括WGとの合同部会を2回開催。グループホームからの地域移行のニーズをもとに相談支援専門員が本人と一緒に考える書式を作成。地域移行アドバイザーを相談支援専門員から選任。						
成果		グループホームからの地域移行に資するよう、支援者が資源の活用を本人と一緒に考える書式を発信。相談支援専門員にむけた相談窓口（基幹相談支援センターあんどを通じ、アドバイザーへのつなぎ）の案内。書式とアドバイザーの認知及び浸透はまだ不十分。						
令和8年度								
ねらい		地域移行支援を活用した地域移行について学ぶ。						
方法等 (いつ頃に何をするか)		7月に部会WG主催の研修会を実施する。地域移行のバックアップについて基幹相談支援センターと連携する。						
5月	WG：年間計画の検討							
6月	WG：地域移行支援の研修について検討（上旬）							
7月	研修「地域移行支援の始め方（仮）」実施（案：7月31日）							
月	研修の振り返り							
10月	今年度の活動の振り返り							
月								
月	※年度内の地域移行に関するケース検討…ニーズに応じて随時							
月								

令和8年度 じりつ専門部会 活動計画
(にも包括 ワーキング)

取組課題		地域包括ケアシステムを活用した精神障がい者の支援について、現状と課題、今後の取組の検討を行い、必要な取組を行います。						
部会員 (◎会長) (○副会長)	氏名	○渡部	○勝部	森谷	大塚	小玉	藤原	小山
	事業所名	ふあっと	あんど	そうゆう	出雲保健所	出雲保健所	事務局	事務局
令和 7 年度								
ねらい		○長期入院患者の退院を促進する為の体制作りを行う ○チーム支援実現に向けた「あったらいいな」を形にする						
実施したこと		○精神疾患のある高齢者の入退院支援、精神科医療機関との連携についてのアンケート調査（居宅介護事業所・施設）結果の分析、まとめ ○各医療機関へのアンケート調査結果報告、病院相談員との意見交換 ○地域移行支援にかかる事例研修会の実施						
成果		○アンケート調査結果からケアマネ、施設から精神科医療機関との連携について意見を聞くことができた。その結果を元に病院相談員との意見交換を行い入退院時の支援であつたらいいなと思う意見を聞くことができた ○地域移行支援にかかる研修会において連携、チーム作りを軸に多職種での事例検討を行う事ができた						
令和 8 年度								
ねらい		○長期入院患者の退院を促進する為に関係機関の役割や業務を理解し、多職種でのチーム支援を形にする						
方法等 (いつ頃に何をするか)		○体制、仕組作りに向けた協議を行う（退院時の流れを形に） ○あんしん支援センターとの意見交換、病院を交えて協議を行う ○退院支援の流れ、相談窓口を形にして周知する						
具体的な方法	5月	意見交換会準備 退院支援の現状、相談窓口についてあんしん支援センターとの意見交換会						
	6月	意見取りまとめ、7月協議準備						
	7月	退院支援の流れ、相談窓口についてあんしん支援センターと病院を交えて協議						
	8月	協議まとめ、退院支援の流れを形にし、周知方法を検討 3年間のまとめと次年度への展望（合同WG）						
	9月	協議まとめ、退院支援の流れを形にし、周知方法を検討 3年間のまとめと次年度への展望						
	10月	周知準備、開始						
	11月	地域移行支援にかかる事例研修会（好事例を元に）において周知						
	12月	年間まとめ、サービス調整会議で報告						
	1～3月	必要に応じて集合（合同WG）						

令和8年度 こども専門部会 活動計画

取組課題		重症心身障がい児や医ケア児、外国籍児、行動障がい児などよりきめ細やかな支援が必要な児の児童発達支援や放課後デイサービス、短期入所等の受け入れ促進にむけて、現状やニーズ把握を行い、方策を検討し提言します。						
部会員 (◎会長) (○副会長)	氏名	◎岡本 松村	○田中 福田由	矢田	岡	タ永	西尾 片岡	
	事業所名	さざなみ学園	プレーグ	ハートピア スマイル	つくつく	CSいずも	事務局	
令和7年度								
ねらい		取組課題に関連した関係機関や相談支援専門員等が抱えている現状・課題を継続的に把握し、前年度に明確化した課題も含めて方向性を検討する。						
実施したこと		①短期入所事業所との意見交換会 ②相談支援専門員との意見交換会 ③出雲圏域医療依存度の高い在宅療養児の生活支援検討会への参加						
成果		①サービス提供事業所との情報交換を通して事業所の現状や課題、アイデアを共有した。また同業同士の相互理解を深めることができた。 ②サービスへのつながりにくさに加え、（学校や家族など）子どもを巡る環境とのつながりにくさが表出され、それに対する意見やアイデアを確認することができた。 ③出雲圏域の医療的ケア児の最新状況を知り、取組や今後の方向性を聞くことができた。						
令和8年度								
ねらい		3年間の取組課題をまとめ提言する。また今後の部会の方向性を検討する。						
方法等 (いつ頃に何をするか)		必要に応じて、関係機関と意見交換、協議しながら3年間のまとめを行い提言できる形にする。また次年度以降の専門部会の方向性を検討する。						
具体的 な方法	4月22日	第1回部会：年間計画の検討、3年間のまとめ						
	5月20日	第2回部会：3年間のまとめ（次年度以降の方向性を検討）						
	6月24日	第3回部会：3年間のまとめ（次年度以降の方向性を検討）						
	7月15日	第4回部会：3年間のまとめ（次年度以降の方向性を検討）						
	9月16日	第5回部会：次年度以降の方向性を検討						
	10月21日	第6回部会：次年度以降の方向性を検討						
	11月18日	第7回部会：次年度以降の方向性を検討						
	12月16日	第8回部会：次年度以降の方向性を検討						
	1月20日	第9回部会：次年度以降の方向性を検討						
	2月17日	第10回部会：振り返り						

令和8年度 そうだん専門部会 活動計画

取組課題		現状の本市における相談支援体制や活動内容について検証・評価を行うとともに、障がい者や家族、地域住民等にとってアクセスしやすい相談支援体制、専門的な指導や助言、人材育成等さらなる強化・充実に向け基幹相談支援センター等の設置の在り方や重層的な仕組みを含めて、本市らしい相談支援体制の構築について検討し提言します。						
部会員 (◎会長) (○副会長)	氏名	◎布野	景山	○足立	渡部			
	事業所名	ハートピア 出雲	ハートピア 出雲	ふあっと	ふあっと			
令和7年度								
ねらい		やりがいを感じながらスキルアップできるように地域の中でのOJTの実施など、人材育成の仕組み作りを行う。						
実施したこと		人材育成の現状と課題を整理し、出雲版セルフチェックシートの作成に向けた検討。相談支援体制に関する検討。						
成果		●出雲版セルフチェックシートの作成 相談支援専門員自身が相談支援専門員に求められる力、資質をセルフチェックしたり、人材育成のツールとして活用できるように、他の地域での取り組みも参考にしながら、出雲版セルフチェックシートの下案を作成した。 ●相談支援体制について 基幹相談支援センター、中核相談、基本相談、指定特定の役割を整理し、それぞれの役割を明確化した。						
令和8年度								
ねらい		やりがいを感じながらスキルアップできるように地域の中でのOJTの実施など、人材育成の仕組み作りを行う。						
方法等 (いつ頃に何をするか)		・出雲版セルフチェックシートを作成し、活用方法を検討する。 ・基幹相談支援センター、中核相談、基本相談、指定特定の役割を整理し、それぞれの役割を具体化する。						
具体的な 方法	4月	活動計画の作成						
	5月	出雲版セルフチェックシートの作成						
	6月	・出雲版セルフチェックシートの作成 ・個別相談会にて相談支援体制についての確認						
	7月	・出雲版セルフチェックシートの活用方法の検討 ・個別相談会にて相談支援体制についての確認 ・市にて相談支援体制の意向を調査を実施						
	8月	相談支援体制の意向調査等の結果を踏まえて部会で検討、運営会議で相談支援体制の役割を説明する。						
	9月～12月	相談支援体制におけるそれぞれの役割を具体化する						
	12月	基本相談の役割についてサービス調整会議で説明する						
	1月～2月	相談支援体制の仕組み作り						
	3月	まとめ						

令和 8 年度 就労支援ネットワーク会議 活動計画書

メンバー	リーダー：萬代（ハートピア出雲） サブリーダー：藤江（ミライカ） 書記：永田（エルパティオ三葉園） 小滝（らいとあつぷいずも） 平木（出雲養護学校） 佐藤（飾彩房） 青木（あそび） 柳楽（ワークセンターフロンティア） 二岡（虹の工房まるべりー） 柳楽（ぽんぽん船） 石橋（やまびこ園） 小豆澤（豆の樹） 吉鹿（ハローワーク出雲） 福田（リーフ） 鍵山（こころの医療センター） 大田（出雲保健所） 佐藤（アトリエール） 松村（NICONICO 弁当） 藤井（県立東部高等技術校） 細木（しまね東部若者サポートステーション） 森山（島根県中小企業同友会／Office Sou） 吉川（スタンド UP） 福間（太陽の里） 長岡（エルパティオ三葉園） 森山（出雲村田製作所） 事務局：青木（福祉推進課） 加藤（福祉推進課）
現 状 （問題点・課題）	①障がい者の就労をめぐるには、福祉・労働・教育・医療・行政など多分野の関係機関がかかわっている。当事者にとって最善の支援を行っていくためにも、必要な支援システムを創造していくためにも、互いに顔が見える連携、協働が生まれる基盤としての関係機関ネットワークが必要である。 ②社会情勢が変化していく中で、障がい者雇用を維持推進していくには、企業側のニーズをしっかりと捉え相互理解と連携の地盤づくりを進める必要がある。 ③地域に就労移行支援事業所が少ない。就労継続支援の事業所から一般就労を希望される方がある。希望に応じたステップアップの機会を得られるよう、就職にむけた支援について事業所スタッフに意識やノウハウを広めていく必要がある。 ④就職がゴールではなく、その後長く安定して働き続けられることがさらに重要である。いざという時に有効な支援が提供できるためには、ゆるやかでも継続的なサポートの仕組みが必要である。 ⑤就労アセスメントに代わり導入される「就労選択支援」について、当事者にとって有用なものとして活用されるよう、情報の収集や共有が必要である。
テーマ （ねらい）	①障がい者の一般就労を支援する組織横断的な事業の企画運営 ②企業とのつながり作り ③一般就労にむけた支援ノウハウの普及浸透 ④ゆるやかな就労定着支援の場の提供 ⑤「就労選択支援」の出雲での運用のあり方について検討する

具体的方法 (評価を含む)	①ネットワーク会議の開催（2 か月に 1 回） ①事例検討 ②いずれもの福祉事業所見学会：時期未定 ②＃ツリーカフェ：偶数付き第 2 木曜日 18:00～20:00 頃 ③合同ジョブガイダンス：10 月予定 ③福祉から一般就労へステップアップ意見交換会：時期未定 ④はたらく仲間のコーヒータイム：毎月第 3 金曜日 18:00～19:00 ⑤「就労選択支援」に関する情報共有と意見交換
------------------	---

年 間 計 画

月	内 容	備 考
4 月	4/9 #ツリーカフェ（偶数月第 2 木曜）  4/17 はたらく仲間のコーヒータイム（毎月第 3 金曜）  4/23 第 1 回ネットワーク会議	スターバックスコーヒーゆめタウン出雲店 ふじひろ珈琲 市役所 入札室
5 月		 5/15
6 月	6/23 第 2 回ネットワーク会議・事例検討	 6/11  6/19 事例提供：ワークセンター・フロンティア
7 月		 7/17
8 月	第 3 回ネットワーク会議・事例検討	 8/6  8/27 事例提供：虹の工房まるべりー
9 月	福祉事業所見学会	 9/18
10 月	第 4 回ネットワーク会議・事例検討 合同ジョブガイダンス	 10/8  10/16 事例提供：エルパティオ三葉園
11 月		 11/20
12 月	第 5 回ネットワーク会議・事例検討 福祉から一般就労へステップアップ意見交換会	 12/10  12/18 事例提供：豆の樹
1 月		 1/15
2 月	第 6 回ネットワーク会議・事例検討	 2/18  2/19 事例提供：リーフ
3 月		 3/19

令和8年度 サビ管・児発管等ネットワーク会議 事業計画書

メンバー	会長 : 池田 (ぽこぽこ) 副会長: 永田 (エルパティオ) <メンバー> (1) 居住系 WG : 大谷 (光風園)、木村 (さざなみ学園) (2) GH系 WG : 富岡 (ふあっと) (3) 日中活動系 WG: 金友 (WANAJAPAN)、福島 (麦の家) (4) 就労支援 WG : 永田 (エルパティオ)、小滝 (らいとあっぷ)、吉川 (スタンドUP) (5) 居宅介護 WG : 松井 (さくら) (6) 児童通所 WG : 平山 (大地の子)、古野 (わっこ) 事務局 : 萬代、藤原 (福祉推進課)
現状 (問題点・課題)	(1) WGのメンバーが固定されてきたり、減少してきている。WGに参加されていない事業所やWGの実施が困難な事業種もある。また、各WG代表者の選出の困難さや負担の問題が表面化している。 (2) より質の高いサービスを提供する為には横の繋がりも大切であるが縦の繋がりや情報を知る必要がある。
テーマ (ねらい)	(1) サービス管理責任者や児童発達支援管理責任者等が、孤立しない顔の見えるネットワークの構築を目指す。各WGの課題を抽出し問題解決に向けて取り組む。 (2) 情報交換やサービスの質の向上に繋がる取組を行いながら、縦の繋がりを深める為にはどのような取り組みが必要か検討する。
具体的方法 (評価を含む)	(1) ①ネットワーク会議の開催 年2回(6月、2月) ・各WGより課題の報告 ②WGの開催(年間計画参照) (2) ・事業種を越えて意見交換や勉強会を企画

年間計画（案）

	内容	備考
4 月		
5 月		G H系 WG 就労支援 WG 居住系 WG 児童通所 WG
6 月	第 1 回サビ管・児発管ネットワーク会議 ・各WGの活動、課題報告 ・ビヨンドプロジェクトについて	日中活動系 WG
7 月		居住系 WG・G H系 WG 就労支援 WG
8 月		
9 月		就労支援 WG
10 月		日中活動系 WG・児童通所 WG
11 月		居住系 WG・G H系 WG 就労支援 WG
12 月		
1 月		
2 月	第 2 回サビ管・児発管ネットワーク会議 ・各WGの活動、課題報告 ・今年度の反省・次年度の体制、計画立案について	居住系 WG・G H系 WG 日中活動系 WG・児童通所 WG 就労支援 WG
3 月		